

ホテル学校だよ

今年もピークは 1400 匹超え！ とっかわホテルまつりレポート

6 月、いよいよホテルの時期です。鳥川ではホテルシーズン中は「とっかわホテルまつり」を開催し、毎晩ホテルの飛翔数調査やホテル案内所でのガイド、屋台での軽食販売などを行っています。

6 月 3 日（土）にはシーズンの幕開けということで「とっかわホテルまつりイベント」が岡崎市ホテル学校で開催されました。キャッスル・ウィンド・オーケストラによる演奏やホテルクイズ、星空の話など様々な催し物で盛り上がり、最後はみなさんお待ちかね、猪汁の振る舞い

いです。会場には長蛇の列ができ、鳥川特製の味を楽しまれていました。

昨年・一昨年は 6 月頭からかなりの数のホテルが飛んでいましたが、今年はそれに比べるとペースが遅い様子。10 日を過ぎても 500 匹を超えないので「もしかしたら今年はあまり出ないのでは...？」と不安がよぎります。しかし中旬を過ぎて気温が上がってくると一気に数が増え、ピークの 17 日（土）には 1402 匹ものホテルが乱舞しました。



毎晩行われるホテルの飛翔調査

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	合計
飛翔数	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250	260	270	280	290	300	310

毎晩行われるホテルの飛翔調査

いですね」と声をかけられることが多かったものの、過去の記録を見ると平成 26 年以前も今年と同じくらいのペースでした。むしろ昨年・一昨 years が「異常に早かった」と見る方が正しいかもしれません。

いずれにしても自然のことなので、イルミネーションのように行けば必ず見られるというものではありません。人間からしてみれば「今日は少ししか光ってなかったね」というだけの話ですが、当のホテルたちはわずかな数日の命の中で一匹一匹が懸命に光っています。繊細なホテルたちに思いをはせて、貴重な光をこれからも守っていきましょう。



キャッスル・ウィンド・オーケストラによる演奏

今年の発生が遅れた原因としては、4 月に雨が降らない日が多く、幼虫の上陸が遅れたことが考えられます。地元の方の話では 4 月 26 日に雨が降った際に大量に幼虫の上陸が確認されたそうなので、ちょうどそこから 50 日経って一気に成虫になって出てきたということでしょう。

お客様からも「今年は随分と遅

ホテル学校歳時記（No.14）

ゲンジボタルは甘いものが大好きだよ

ホテルを捕獲するときに口にする歌に「こっちの水は甘いぞ」の言葉がある。全国のこの歌を調べると、「あっちの水は苦いぞ、こっちの水は甘いぞ」と「こっちの水は甘いぞ、あっちの水は苦いぞ」という違いがあり、愛知県と愛媛県の 2 県が最初に自分の甘さを表現し、苦い水を後で表現している。県民性の表れだろうか？

さて、通常ゲンジボタルの成虫は葉についたつゆを飲むだけだが、実際に薄い砂糖水やはちみつ液を与えると、成虫が長生きすることが知られている。長野県辰野町・勝田さんは昭和 50 年代に 45 日間生存したという記録を報告している。私も真似をしたところ 30 日間生きたという記録がある。

自然界の食品ではスイカ、メロン、キュウイ、モモでテストしたが、メロン（夕張の高級メロン）が最高の食品であることが判明した。

この食性はカワニナも同様であり不思議である。カワニナはメロンの薄皮を残し、すべてを平らげてしまう。糖分の威力が良く理解できる実験なので、機会があれば研究していただきたい。成虫に与える場合はスポンジやガーゼに含ませて与えると行儀よく並んで吸水するのでぜひ観察してほしい。

（ホテル学校名誉校長・古田忠久）

ホテルクイズに挑戦！

鳥川の川沿いにはアジサイがたくさん植えられています。なぜでしょう？（答えは裏面へ）

花の蜜にホテルが集まるため

車の光が川に入るのを防ぐため

葉を幼虫が食べるため

こんなところにホタルの卵が！？

ゲンジボタルの成虫はわずか 7 日～10 日ほどしか生きることができません。交尾を終えたメスは次の世代に命のバトンを渡すべく、産卵活動に移ります。卵から幼虫が孵化するまでの間は約 1 か月。その間に乾燥してしまうことが無いように、川の近くのコケに卵を産み付けることが知られています。そして孵化した幼虫がすぐ川に入ることができるように、下に水が流れているような場所を選ぶ習性があります。

7 月はじめ、昨年度までホタルマスターファミリー講座に参加していた豊橋の杉本家がホタル学校を訪れ、鳥川でホタルの卵を見つけたと報告してくれました。場所はホタル学校から北に 200 m ほど行った場所にある鳥川にかかる橋の側面。ぱっと見たところではコケの色が一部違うだけのようにも見えますが、目を凝らすとコケに小さな卵がびっしり産み付けられていました。太陽が直接当たらない様に橋の北側の側面に産み付けられており、下はもろろ川が流れています。親ボタルは決して自分の産んだ子どもたちに会うことはできませんが、子の無事を想う気持ちは私たち人間と変わりません。



拡大すると卵がびっしり！

ホタルまつり天文台を開設



望遠鏡で見た木星

6 月のホタルまつり期間中、毎週土曜日にホタル学校 2 階テラスに天体望遠鏡を設置し天文台を開設しました。あいにく梅雨時のため雲が多く満天の星空とはいきませんでしたが、時折うす雲を通して木星を捉えることができました。木星は太陽系最大の惑星です。口径 30 センチ 150 倍の望遠鏡で見ると表面に 2 本スジが見え、木星の周りを廻っているガリレオ衛星と呼ばれる 4 個の衛星もはっきり見えました。毎回 100 名程の方が見に来てくれました。ホタルも星も空が暗くないと良く見えません。そんな環境をいつまでも残せたらいいなと思います。

(ホタル学校・かみや)

ホタルクイズ答え合わせ

車の光が川に入るのを防ぐため

ゲンジボタルの成虫は光でオスとメスがコミュニケーションしています。そこに人工的な光が当たってしまうと会話の邪魔をしてしまい、繁殖活動を妨げてしまいます。人間でいえば婚活パーティーの会場で大音量の音楽を流すようなもので、とても迷惑ですね。

そこで鳥川では川沿いにアジサイの花を並べて植えることで、ヘッドライト等の光が川に入るのを防いでいます。ちょうどホタルシーズンの 6 月に葉っぱが茂り花が咲くため、訪れる方にとっても景観を楽しむことができる一石二鳥の対策になっているのです。



ホタルシーズンに合わせて満開になったアジサイ